

耳鼻咽喉科医のための
3歳児健康診査の手引き
第3版(2010年)

社団法人日本耳鼻咽喉科学会
社会医療部
福祉医療・乳幼児委員会

3歳児健康診査における聞こえの確認

I. はじめに

平成2年8月に出された旧厚生省通知(児発第638号)により母子保健法で定められている3歳児健康診査に聴覚検査が追加され、同年10月から実施されるようになりました(以下、聴覚検診と記載)。その後平成10年4月に聴覚検診の実施方法が改訂され(旧厚生省通達:児母第29号)、現在全国的に行われています(以下、厚生労働省方式と略)。

近年、新生児聴覚スクリーニングが全国的に行われるようになり、乳児期に発見される難聴児が増加しています。しかし、新生児聴覚スクリーニングを受けなかった子どもや新生児期以後に難聴が生じた子どものためには、幼児期に聞こえを確認することが大切です。

3歳児健康診査は聴覚に関して就学前に行われる最後の聴覚検診になります。

耳鼻咽喉科医は聴覚検診に指導的役割を果たす立場にあります。また、3歳児健康診査で精密健診票を発行された3歳児の聴覚障害の診断、治療、療育の指導にあたるのが責務です。

II. 目標

両側高度難聴および中等度難聴の発見が目標です。難聴があれば、言語獲得の大事な時期にあたるため治療、療育に速やかに対処することになります。

III. 聴覚検診の方法

厚生労働省方式として行われている聞こえの確認方法は以下の如くです。

1. お子さんの耳に関するアンケート(質問票)。
2. 保護者がおこなう絵シートによるささやき声検査(保護者による聴覚自己検査)。

3歳児健康診査の実施に先立ち、各家庭にお子さんの耳に関するアンケートと保護者がおこなう絵シートによるささやき声検査の各用紙が郵送されます。保護者は、同封された説明書を読んでアンケートおよびささ

やき声検査の用紙に記入し、3歳児健康診査時に提出します。

以下、聞こえの確認方法の各項目を具体的に示します。

1. お子さんの耳に関するアンケート

お子さんについて、あてはまるところを○で囲んでください。

1) 家族、親戚の方に、小さいときから耳の聞こえのわるい方がいますか。

はい いいえ

2) 中耳炎に何回か、かかったことがありますか。

はい いいえ

3) ふだん鼻づまり、鼻汁をだす、口で息をしている、のどれかがありますか。

はい いいえ

4) 呼んで返事をしなかったり、聞き返したり、テレビの音を大きくするなど、聞こえのわるいと思うときがありますか。

はい いいえ

5) 保育所の保育士など、お子さんに接する人から、聞こえがわるいといわれたことがありますか。

はい いいえ

6) 話しことばについて、遅れている、発音がおかしいなど、気になることがありますか。

はい いいえ

7) あなたの言うことばの意味が、動作などを加えないと伝わらないことがありますか。

はい いいえ

2. 保護者がおこなう絵シートによるささやき声検査

<検査の方法>

- 1) 絵を子どもの方向に向けて置き、1mくらい離れ向かい合い座ります。
- 2) 「この絵の名前を言うから、お母(父)さんが言った絵を指さしてね。」と子どもに言って、普通の声(会話をする時の声)で、絵シートの表示した絵の名前を言い、子どもが6個の絵をすべて正しくさせるようにします。
- 3) 「今度は小さな声で絵の名前を言うから、よく聞いて、指さしてね。」と子どもに言って、口元を見せないように手などで隠し、6個の絵の名前を、ささやき声で1回ずつ言い、正しくさせれば下の表に○、正しくさせなければ×を記入します。

いぬ	くつ	かさ	ぞう	ねこ	いす

*検査の注意事項

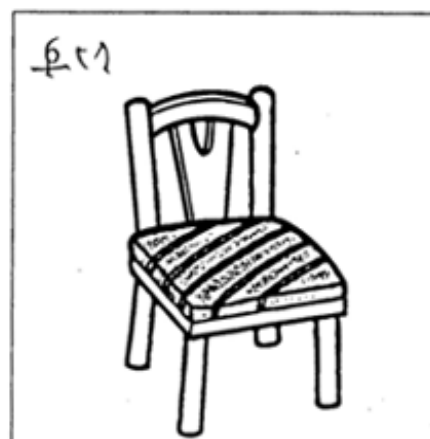
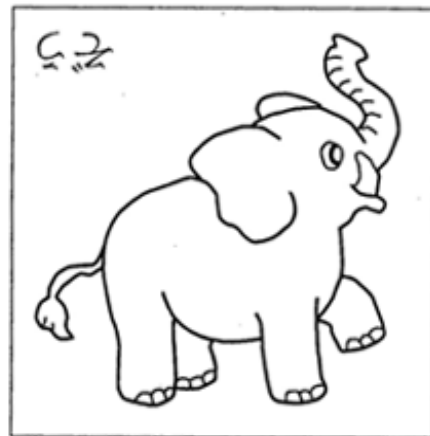
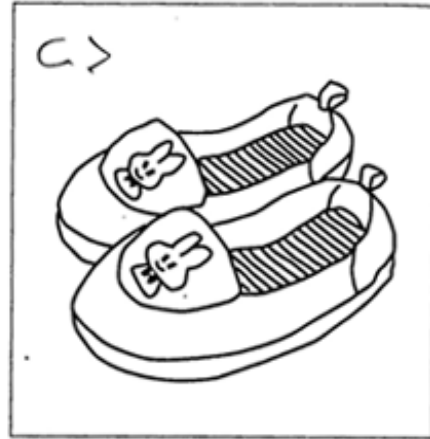
絵の名前を言うのは1回だけです。聞き返されても、繰り返し言わないでください。また、ささやき声が大きくならないように注意してください。

*“ささやき声”の出し方

ささやき声は、息を出すだけの感じで、ないしょ話のようにささやきます。普通の声は、のど(のどぼとけ)に手をあてたとき、指に振動が感じられますが、ないしょ話のようにささやくと振動は感じません。この状態が“ささやき声”です。



絵シート



IV. 判定方法とその後の方針

前項の「Ⅲ. 聞こえの確認方法」について、判定方法とその後の方針は以下の通りです。

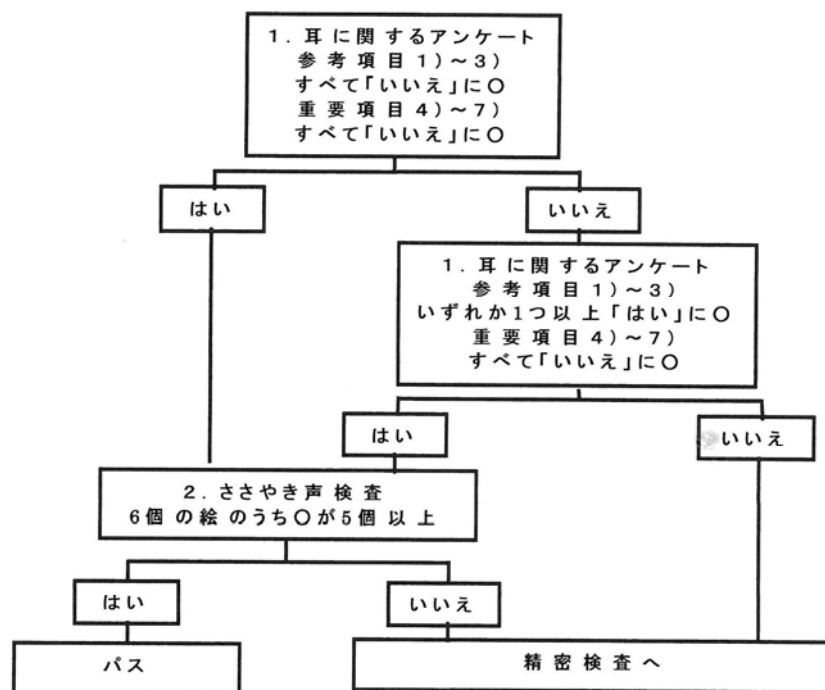
1. 「1. お子さんの耳に関するアンケート」は、1)～3)の参考項目と、4)～7)の重要項目に分けられます。

参考項目1)～3)および重要項目4)～7)がすべて「いいえ」に○の場合、あるいは参考項目1)～3)のいずれか1項目以上「はい」に○、かつ重要項目4)～7)がすべて「いいえ」に○の場合は、「2. 保護者がおこなう絵シートによるささやき声検査」の結果を確認してください。

- 1) 絵シートの6個の絵のうち、○が5個以上ある場合はパスとします。
- 2) 絵シートの6個の絵のうち、○が4個以下の場合は精密検査にまわしてください。

2. 「1. お子さんの耳に関するアンケート」の重要項目4)～7)のいずれか1項目以上「はい」に○がある場合は、参考項目1)～3)および「保護者がおこなう絵シートによるささやき声検査」の結果にかかわらず精密検査にまわしてください。

以下、判定方法とその後の方針をフローチャートで示します。



V. 難聴を見逃さないためのポイント

1. 保護者の訴えがあれば、“様子を見ましょう”との対応をしないで速やかに精密検査にまわしてください。

保護者が聞こえやことばについて心配している場合は、難聴の可能性があるため、精密検査で聴力を確認することが重要です。

2. 新生児聴覚スクリーニングをパスしていても、もう一度聞こえの確認をしてください。

新生児聴覚スクリーニングをパスしていても、その後難聴が生じる場合があります。聞こえの確認項目で再度聞こえをチェックしてください。

3. 発達の問題と考えられる子どもも、聞こえの確認が必要です。

発達に問題があると考えられる子どもと、難聴の子どもはコミュニケーションの問題やことばの発達の遅れなど類似した点があります。また、両者が合併していることもあります。その後の療育方針を考えるために、聞こえの確認項目をチェックし、異常があれば判定基準に従い精密検査にまわすことが重要です。

4. 中耳炎を繰り返す子どもは聞こえの確認が必要です。

中耳炎を反復し、聞こえない状態が続くと、コミュニケーションやことばの発達に支障をきたすことがあります。また感音難聴に中耳炎を合併している場合は、中耳炎が改善しても聞こえにくい状況が持続します。聞こえの確認項目に異常があれば、判定基準に従い精密検査にまわしてください。

VI. 精密検査

3歳児聴覚検診で要精査となった子どもを耳鼻咽喉科医が検査診断することになります。具体的には、次の診察と検査を組み合わせで判断します。

留意することとして3歳児の時期は言語が非常に発達する時期ですが、難聴があると言語発達、発音に問題を生じます。診察にあたって、言語を含めて診断する必要があります。また、知的な発達も3歳児では個人差があり、聴力検査の困難さがあります。

- 1) 診察：外耳、中耳を含めて診察を行います。3歳児は滲出性中耳炎の好発年齢であるため、中耳炎の有無を確認し、必要に応じて Tympanometry を行います。名前や年齢をきいて答えられるか、コミュ

ニケーションが可能かをみます。絵本を見せ、物の名前を尋ね、言語の発達と構音の状態をみます。

- 2) 乳幼児聴力検査：成人に対して行う標準純音聴力検査がまだ出来ないため、発達に応じた乳幼児聴力検査を行います。遊戯聴力検査、ピープショウテスト、条件詮索反応聴力検査（COR：conditioned orientation response audiometry）を行います。
- 3) 耳音響放射（OAE：otoacoustic emission）
- 4) 聴性脳幹反応（ABR：auditory brainstem response）
- 5) 聴性定常反応（ASSR：auditory steady state response）

以上の検査を組み合わせ、総合的に難聴の有無、両側性か片側性か、難聴の程度を診断します。聴力検査は乳幼児聴力検査と他覚的検査を組み合わせで行います。他覚的検査では睡眠導入剤の使用も必要になります。

両側難聴のお子さんはその程度によって補聴器装用、療育などの対処が必要になります。療育に結びつくようにご指導下さい。

Ⅶ.3歳児聴覚検診実態調査

日本耳鼻咽喉科学会社会福祉医療・乳幼児委員会は地方部会の協力のもとに毎年3歳児聴覚検診実態調査を施行しています。2007年度（平成19年度）3歳児健康診査の対象は全国で約104万人でしたが、両側感音難聴35例が診断されています。調査の内容は難聴の程度（～dB）も調査対象になっておりますので、これに回答できる各地方自治体の体制を整えることが地方部会に期待されます。

実態調査のアンケートの主な内容を以下に示します。

受診対象数	名
聴覚検査用紙配布数	名
質問票回収数	名
ささやき声による検査回収数	名
精密健診票（医療券）発行数	名
精密検査受診数	名

精密健診結果（3歳児聴覚検診で初めて発見された子どもさんについてのみ記入してください。）

1. 聴覚障害（難聴）の有無と程度

1) 難聴なし 件

2) 難聴あり 件

(1) 両側性難聴 件

a) 40～70dB 未満 件

b) 70dB 以上 件

注1:程度は良聴耳で記載してください。

*上記に挙げた難聴児の中で、難聴の種類が判明している場合は下記に記入してください^{注2}。

① 両側感音難聴 件

a) 40～70dB 未満 件

b) 70dB 以上 件

② 両側伝音難聴 件

a) 40～70dB 未満 件

b) 70dB 以上 件

③ 両側混合性難聴 件

a) 40～70dB 未満 件

b) 70dB 以上 件

注2:難聴の種類については主たるもので記載してください。

(例:軽度の滲出性中耳炎を合併した感音難聴は感音難聴として記載)

(2) 片側性難聴 件

*上記例の中で、難聴の種類が判明していれば下記にお書きください。

① 片側感音難聴 件

② 片側伝音難聴 件

③ 片側混合性難聴 件

2. その他の耳鼻咽喉科領域の疾患についてお答えください。

1) 言語発達の障害	件
2) 耳疾患	件
(1) 滲出性中耳炎	件
(2) その他	件

VIII. おわりに

3歳児健康診査の目的は両側高度難聴および中等度難聴の発見にあります。両側難聴が診断された場合には難聴の種類と程度によって治療、療育指導などが必要になります。また言語発達、コミュニケーションの状態など継続して観察、指導していく必要があります。

耳鼻咽喉科医は乳幼児の聴覚・言語に関する十分な知識と理解を持って、対応することが求められます。